



会報

SHINSHIYOU

## 神私幼

平成27年3月1日

第191号

(昭和29年7月10日創刊)

発行：公益社団法人 神奈川県私立幼稚園連合会

発行人：会長 小澤 俊通

編集人：神私幼総務部(広報室)

発行：年4回(6月・9月・12月・3月)

発行部数：1700部

<http://www.shinshiyou.com>
〒221-0055 横浜市神奈川区大野町1-25 横浜ポートサイドプレイス509 アネックス5F  
TEL. 045 (440) 3210 FAX. 045 (440) 3209

公益社団法人 神奈川県私立幼稚園連合会



## INDEX

会長挨拶

## 今年度を振り返って

2・3

公益社団法人 神奈川県私立幼稚園連合会 会長 小澤 俊通

## 平成26年度 幼稚園教育経営研修会

副会長 安西 透

5

## 研修事業部・研究部報告

公開コーディネーターが3名に  
やってよかった公開保育

研究部長 亀ヶ谷 忠宏

研究特別A部会報告 研究部 佐伯 妙有

研究特別B部会報告 研究部 澤井 正巳

## 平成27年度 私学振興費の概要について

振興部長 石井 和則

4

## 平成26年度 既卒者対象就職セミナーを終えて

経営管理部長 池田 清

## 2014年度を振り返って

## 事業部次長に聞きました

6・7

総務部 次長 鈴木 豊司

研修事業部 次長 黛 裕治

振興部 次長 仁藤 一成

経営管理部 次長 近藤 康弘

研究部 次長 山田 まり子

## 平成26年度 神私幼相談事業DATA

8

## 研修会報告

## 後継者育成研修会報告

## 今年度を振り返って

早いもので、平成二十六年度も年度末を迎えました。

加盟園におかれましては、卒園の準備と来年度入園児受入準備に追われていることと存じます。県連は昨年五月に新役員が就任して九ヶ月が経過しました。まだまだ不慣れなところも多く、至らぬ事ばかりで申し訳なく感じております。しかしながら役員一同、懸命な努力を続けてまいりました。各方面への働きかけなどで慌ただしく、また目まぐるしく過ぎた日々を改めて振り返りたいと存じます。



公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会

会長 小澤俊通

## 新制度施行を間近に

この四月から、様々な課題を抱えながら新制度はスタート致します。皆様ご存じの通り、平成十九年度から認定こども園制度が始まり、全国では約二〇〇〇の幼稚園が認定こども園になると言われていました。しかしながら財政支援がほとんど期待できず、当初の想定通りには普及しませんでした。それでも少しずつ制度の見直しが進み、全国で一二〇〇を超える認定こども園が誕生しました。そのような経過をたどりながら、子ども・子育て支援新制度は成立し、社会保障の一つとして「子育て支援」に投入されることは大きな前進であるといえるでしょう。

昨年十二月の総選挙にて消費税一〇%が先送りされ、経済再生が優先されることになりました。消費税一〇%になるとを前提として財源確保が約束されていた新制度の先行きが不透明になってきたものの、二十七年は国と地方の予算を合わせ五一〇億円を超える額が新制度を始めとする「子育て支援」に投入されることになっています。まだまだ不十分なことは明らかですが、今後とも新制度移行園が安心して運営できるように、公定価格の増額を含めた制度の改善を強く要望してまいりたいと存じます。県に對してもしっかりと新制度への財源確保を訴えて行かなければなりませんので、引き続きのご支援をお願い致します。

私学助成の充実と  
就園奨励費の拡充を

県内の私立幼稚園では、新制度に移行する園は六七〇園中一一〇園と言われ、約一七%になります。ほとんどの園がいわゆる私学助成の幼稚園として、引き続き運営される事を選択されました。子育て支援法成立の際には、国会の付帯決議として、私学助成の充実がしっかりと決議されています。県連は県内の私学団体とも連携して、神奈川県内の私学団体の増額を繰り返し訴えてまいりました。六月から八月にかけて、県議会の主要会派に對し二十七年の予算要望を続け、県民局長を始め私学振興課とも何度となく話し合う機会を作り、私立幼稚園の財政基盤を強固にするべくお願いをしてきております。平成二十七年の県私学予算は例年を上回る大きな前進と言えます

が、さらに充実させるべく役員一同努力していきたいと思います。

また、保護者に対する「就園奨励費」は、欠かすことの出来ない制度です。全日私幼連の幼児教育無償化の運動とあいまって、二十七年でも増額することが出来ました。国庫予算からこの制度に総額四〇〇億円が計上され、地方自治体の予算と合わせると一二〇〇億円となる大きな事業となりました。子育て支援新制度の利用者負担額にも反映されることになっており、更なる前進といえるでしょう。ただ当初文部科学省が実現を目指した五

## 各部の活動は

県連の五つの部は、事業計画に基づき積極的に事業展開をしてまいりました。総務部は毎月の正副会長会議や運営委員会などの会議開催や事務局の管理など担当して頂きました。財務室は中間決算や監査に對し、広報室は年四回の会報神私幼発行や県連HPの更新などを実行し、県連の屋台骨を支えて頂きました。

振興部は先程述べた予算要望活動を中心として活動し、父母連研修大会や教育経営研修会を企画実施しました。経営管理部は就職相談会、後継者育成研修会、既卒者向けの就職セミナーなどを企画実施されました。既卒者向け就職

セミナーは当初の事業計画にはありませんでしたが、県との協議の中から実施に踏み切った事業です。来年度も実施できるように準備を進めております。各園の人材確保にご活用頂ければ幸いです。

研修事業部・研究部は新規採用教員研修会から始まり、一〇年経験者研修会、免許状更新講習会、公開研究保育研修会、中堅教諭対象研修会など実に多彩で豊富な研修・研究活動をお進め頂きました。特に鶴見大学をお借りして実施した新規採用教員研修会などでは、真夏の猛暑の中、部員の皆様にご活躍を頂きました。

講座に全日私幼幼児教育研究機構の安達研修研究委員長を講師としてお招きしてご講演頂きました。

南雲課長からは、新制度がスタートするこの時期だからこそ、幼稚園教育の本質を軸として、ぶれない研修研究活動を大事にしている連合会の姿を見ることができたこと、また新制度に移行しない約八十三%の私立幼稚園に對して、安心して運営できるよう支援していききたいという心強いお言葉を頂きました。

淵上幼児教育課長からは「国が捉える私立幼稚園の将来について」と題し、新制度の各市町村の計画に基づく量の拡大と質の改善をすべて実施していくことの説明があり、移行園にとつては安心できる内容でした。しかし、これから人口減少時代に突入する未来は、仕事内容が大きく変わり、六割は今はまだない仕事

歳児の幼児教育費無償化は先送りとなり、低所得者の負担軽減が優先されることになりました。さらに注目すべきは、就園奨励費の国庫負担をしっかりと三分の一にすることと、この制度を未実施の自治体に制度導入を促していることです。残念ながら県内でも、就園奨励費制度を実施していない自治体が存在しています。地元の協会と協力しつつ、県内全ての市町村で実施して頂けるよう働きかけてまいりたいと存じます。

## 新制度対策研究委員会の働き

五月下旬の公定価格仮単価の発表以来、実に様々な動きがありました。特に認定こども園の減収が明らかになるにつれ、認定返上がマスコミに何度も取り上げられ、新制度移行を見合わせる私立幼稚園が続出しました。特別委員会では、山口・小山正副委員長が中心となり、毎月のように情報交換が行われ、各地区協会へ最新の情報をお届けするようご努力頂きました。特に六月の新制度研修会には二〇〇名を超える参加者があり、椅子を買い足してまで参加希望に応えました。新制度への移行については最終的には各園の経営判断にゆだねることになりましたが、県連としての情報提供や全日私幼を通じての制度の改善要望にはそれなりに対応できたと考えております。

出来れば来年度も特別委員会は継続して設置し、子育て支援新制度のスタート後の検証や市町村対応の情報交換を含めて、二十八年度以降の移行を検討されている園にも有益になる情報が提供できればと考えています。

ともかく毎月の予定をこなすことに精一杯の部分もあり、会長職の重責を両肩にずっしりと重く感じています。どこまで県連としての役割を果たせるか、どこまで加盟園の声を行政や議会関係者にお届け出来ているか自問自答の毎日です。私一人の能力には限界がありますので、信頼する副会長や役員の皆様と議論を深めながら、少しでも加盟園のお役に立てるよう前進していこうと思います。どうぞ遠慮なく様々なご意見をお寄せ下さい。今年度の経験をいかしながら来年度に向けて準備を進めてまいりますので、引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

## 平成26年度

幼稚園経営  
教育研修会  
開催

副会長 安西 透

平成二十七年一月三十一日(土)、ようちえん会館に於いて幼稚園教育経営研修会が私学振興課の南雲課長を来賓として開催されました。今回の研修会は、四月からの新制度スタートを受け、私立幼稚園の将来を考える研修会ということもあり、沢山の先生方のご参加を頂きました。「新制度元年を控えて、これからの私立幼稚園」をメインテーマとして、基調講演に文部科学省の淵上幼児教育課長、

するだろうと言われています。その中で幼稚園として子ども達に、今どのような教育をしなくてはいいのかわかる必要があること、子どもにはその選択権がないので幼稚園は将来を見越した環境作りをしなくてはいいこと、また現場の教師は成長をやめてはならず、研修研究活動を通して保育者としての資質の向上を目指していくことが大切というお話を伺いました。

安達先生からは「教育の質の向上を目指す―こどもをまんなかに関係性の中で―」と題し、自身の保育観や幼児理解、自園の様々な取り組みを中心とした講話が



ありました。教育の質は見えにくいので保護者にどのように知らせていくかが重要であり、そして見えない教育が行われている幼稚園教育がいかに大切であることを保護者とともに考え、子どもの育ちを共有することが大切であるとお話を伺いました。

新制度が四月よりスタートする今年、初めに幼稚園の制度と教育(保育)の質のお話を伺えたことは、自園の将来を考える一助になりました。

平成  
27  
年度

私学振興費の概要について



振興部長  
石井 和則

平成二十七年年度県予算(案)「私学振興費」の概要について、二月十六日県庁新庁舎に私学団体の担当者が集まり、松森県民局長より予算編成の説明を受けました。一般会計が過去最高の一兆九四九五億円になったが、財政は硬直化状況。四月に知事選挙が実施されることから、当初予算は骨格予算として編成されたということです。県民の安全・安心の確保

| 平成27年度当初予算(案)私学振興費の概要 (幼稚園関係抜粋) |                |             |                                                                               |
|---------------------------------|----------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 事業                              | 平成27年度<br>(千円) | 対前年比<br>(%) | 幼稚園関係摘要                                                                       |
| 経常費補助(一般)                       | 15,287,652     | 91.4        | 園児単価：国の基準単価 178,435円<br>県の割戻額 147,191円<br>前年度比較 4,955円増<br>(新制度移行に伴う補助対象園数の減) |
| 預かり保育推進費(特別)                    | 644,600        | 90.0        | 新制度移行に伴う補助対象園数の減                                                              |
| 地域開放推進費(特別)                     | 192,800        | 102.3       | 補助対象園数の増 306園←297園(9園増)<br>(新制度移行園含む。)                                        |
| 私立幼稚園特別支援教育費補助                  | 1,678,936      | 103.5       | 補助対象園児数 2,267人(88人増)<br>(新制度移行園含む。)                                           |
| 私学団体助成費(全学種)                    | 6,200          | 100.0       | 私学4団体の研修事業費等に助成                                                               |
| その他(全学種)                        | 696,304        | 68.8        | 認定こども園移行耐震化工事費補助 521,923千円<br>私立幼稚園緊急環境整備費補助 161,063千円                        |

や新たな子ども・子育て支援制度などによりしっかりと取り組むとともに、成長戦略の実現に向けて神奈川から経済のエンジンを回す予算編成となりました。幼稚園関係の経常費補助においては、県下六七〇園のうち一一〇園が新制度に移行するということから、預かり保育推進費などが減額となっていますが、地域開放推進費、そして特別支援教育費補助などは前年度比増、「園児一人当たりの単価」においては対前年比三・五％増の四九五円となり、将来の子どもへの教育に対する質の向上のため、これからの幼児教育に期待が持てる感じがいたしました。また、職責に応じた新たな補正係数の見直しにより、教職員割に「園長加算」(年三〇万円)が新設されました。なお新制度に移行する園に対する予算の概要は、今後次世代育成課から説明がありますので、詳細が分かり次第情報提供いたします。

次代を担う子どもたちのために、私学助成を受ける園も新制度に移行する園も、それぞれが今まで通りに私学の独自性を発揮し、幼児教育の経営を継続的に発展していけるように、これからも教育振興連盟や応援していただける多くの議員の皆様と手を携え、幼児教育の発展に貢献していきたいと思っています。

研修事業部  
研究部  
報告

公開保育コーディネーターが3名に  
やってよかった公開保育



研究部長  
亀ヶ谷忠宏

「やってよかった 公開保育」。「会話が弾めば気づきが増える」を合い言葉に全日私幼幼児教育研究機構では公開保育&公開保育コーディネーター養成を推し進めています。県連研究部でも研究特別A部会の協力を得ながら取り組んでいます。神奈川では、これまでに山崎和子先生(三松幼稚園)、志村雄治先生(白山幼稚園)、櫻井喜宣先生(さくらい幼稚園)の三名の先生が公開保育コーディネーター養成講座に参加され、資格を取得されました。

幼児教育の重要性が叫ばれ、ますます公的役割も高まって、さらに公費が投入される中で、それだけ厳しい基準や評価が私立幼稚園に求められるようになっていきます。現在は自己評価だけが義務づけられ行われてはいますが、形だけのものになって自園の教育の改善をはかる目的は達成されていないところも多いようです。各園がこれまで独自に子どもにとって良くれと思つて自園の中でだけで取り組んできた保育が、いつの間にかガラパゴス化してはいないでしょうか? 独自性といえながら独善性に陥っていないでしょうか? 自園の保育は開かれたものになっているでしょうか? 公教育を担っているという自覚の下、独善に陥らないために私立幼稚園にふさわしい新しい形の学校評価が今、求められています。現在保育所等で実施されている第三者評価は外部の専門家によるマニュアルに沿った評価で、外部監査的であり、幼児教育の特性を十分に理解した評価者が評価を行うものではありませんので、実際の保育内容やプロセスに

についての評価は殆ど無く、保育の質の向上に寄与しているとは言えないのです。このような現状を踏まえ、研究機構では公開保育を実施し、コーディネーターや参加者の外部の視点を導入することによって自園の良さと課題を見つけていくことにより、第三者評価としての役割を果たすことを目指しています。これは行政による査察的な評価のように私立幼稚園としての理念や地域事情の違いを無視して、全く同一の尺度で定量的に評価したり、ABCのような評価の結果を付けるというようなものではなく、幼稚園教育要領の理念に基づいた保育活動や運営等を重要な視点としつつ、それぞれの園の教育の質の向上を目指すものです。

まずは、公開した園の良さを再確認したり、これから取り組むべき課題を明らかにすることから始めるもので、公開のみで終わりにしたり、外部から細かな違いを指摘するだけで終わるのでもありません。公開保育の後にその日の保育を中心に、参加者が感じたその園の良さや共感できること、疑問に感じたこと

研究特別A部会 幼児理解と園内研修

「公開保育を通して自園の研修のあり方を考える」  
研究部 佐伯 妙有

A部会では毎年幼児理解について考えてきましたが、今年度も佐藤康富先生(鎌倉女子大学短期大学部初等教育学科教授)のご指導の下、園内研修のあり方を通して研究を進めて参りました。昨年度から始まった全日の公開保育コーディネーター養成講座を修了された先生や、今年度受講されている先生方とも連携することで、研究内容もより充実したものとなりました。

年3回の公開保育で事前に実施園のクラスや学年でどのような所を見てもらいたいかを検討し、当日は見てもらいたいポイントに参加者が付箋を使って肯定的な意見や、課題へのアドバイスを書きました。このことで、参加する側、受入れる側共にポイントを絞れることが出来たため、多様な意見が出てきました。またクラスの先生と内容を深めながらマッピングによって互いの意見の関連性を考えたり、田の字法によって今何を重要課題としているかを意識することができました。実際に付箋を使って字を書きながら作業を進めていくことで、可視化による意識化と振り返りがしやすく、それぞれの意見を一度に共有できる利点を感じました。

この過程をよりスムーズに効率よく行うための重要な役割を果たしていたのが、前述のコーディネーターの先生方でした。参加者の意見をよく聞き、持ち味や良さを引き出したり、テーマから外れないように全体をチェックしたり、論点をまとめ方向性を示すなど、コーディネーターによって保育をした側も見学した側も充実した研修になりました。またコーディネイトしてもらった先生方がこの経験を通して自園でコーディネーターの役割をしてもらうことも、この研究会の大きな目的と考えています。まだまだ課題もありますが、今後この研修方法で保育者同士が協働し合い、現場がより豊かになるように学び合っていきたいと思います。

研究特別B部会

「ドキュメンテーションによる幼児理解と評価」  
研究部 澤井 政巳

今年度B部会は、和泉短期大学の相馬靖明先生をお迎えし、「ドキュメンテーションで子どもの視点から保育の質を評価する」というテーマで研修を重ねてきました。

子どもが生活や遊びの中で夢中になっている姿や、人やモノに真剣に向き合っている姿、子どもの思いをエピソードとして伝えるドキュメンテーション。保育者の視点だけではなく、子どもの視点からエピソードを語り文章化するためには、子どもに寄り添い、子どもの声に耳を傾けながら子どもの思いを読み解くことが求められます。目には見えにくい子どもの育ちを伝えること。そこにドキュメンテーションの難しさがあります。

そこで、まずは、マーガレット・カー氏の5つの視点(①何かに興味をもっている②夢中になっている③チャレンジしている④気持ちを表現している⑤自分の役割を果たしている)を意識した写真を撮って持ち寄ることから始めました。写真をギャラリー形式で壁に貼り出し、その時の環境設定や、聞いてみたい事、感想等を自由に付箋に書いて貼ってもらい、自分とは異なる視点や新たな気づきがあることを知りました。

次に、心情のプロセスを時系列で読み取るための省察の方法から、その子は何をしたのか(Do)?、何を考えていたのか(Think)?、何を感じていたのか(Feel)?、本当にしたかったことは何か(Want)?を考え、子どもの視点から自身の保育の振り返りをおこないました。

また、読み手に伝わるドキュメンテーションのレイアウトや、パソコンで作成する際の技術的な指導もしていただきました。

まとめは、実際に読み手を意識して作成したドキュメンテーションを実践発表形式でポスター上に貼り出し、互いに評価をしました。保育を振り返り、記録し、省察するドキュメンテーションは、子どもの育ちを発信するだけでなく、自身の保育実践記録にもなります。

B部会では、今後も保育の質の向上につながる研究をおこなっていききたいと思います。

平成26年度

既卒者対象就職セミナーを終えて



経営管理部長  
池田 清

本事業は昨年の九月に国の「緊急雇用創出事業」を県次世代育成課を通じて本連合会が受託した事業です。急遽、年度途中に新たな事業が加わり経営管理部が担当させて頂くこととなりました。概要と事業行程は次の通りです。

◆概要

幼稚園免許をすでに取得している方を対象とした幼稚園への就職・職場復帰を支援するためのセミナーの実施。

◆事業行程

事業計画策定一〇月〜十一月。計画書県提出十二月。県内保育士・幼稚園教諭資格所有者名簿(約五五〇〇人)の個人情報取得十二月中旬。その後、案内発送。回答の集約一月。

◆セミナー実施

平成二十七年一月十七日(土)午前。当日は講演を若月芳浩先生(玉川大学教授・四季の森幼稚園園長)にお願い致しました。演題「就職・現場復帰に向けて」子どもの世界って楽しいですね」。



(参考数値データ)

|                        |         |     |
|------------------------|---------|-----|
| ・発送数約5500 (ハガキ・メールによる) |         |     |
| ・セミナー参加希望者66名          | 実参加者44名 |     |
| ・求人票提出園数               | 38園     |     |
| ・参加者平均年齢               | 46歳     |     |
| ・同最少年齢                 | 27歳     |     |
| ・同最高年齢                 | 63歳     |     |
| ・参加者の現在の状況             | 求職中     | 17名 |
|                        | 保育所勤務   | 9名  |
|                        | アルバイト   | 8名  |
|                        | 幼稚園勤務   | 5名  |
|                        | 民間会社    | 5名  |

り園見学を実施。求人園見学・面接。その後話が進んだ場合、採用の可否を書面にて県連にフィードバック。そして事業報告を年度末、県提出、というのが本年度の流れです。従いまして、この原稿が「神私幼」に掲載される三月もまさに求職者と求人園のマッチングは現在進行形となります。本セミナー参加者が登録加盟園を訪れた際は是非、前向きに採用をご検討頂けますようお願いを申し上げます。併せて今期の事業の部内総括も未了です。以下に示された数値データをもとに近々総括を行い、運営委員会にその結果を報告すると共に、各先生方のご意見を広く求めつつ次年度へと繋げて参りたいと思っております。

若月先生を始めご協力を賜りました諸先生方に、この場を借りて心より感謝と御礼を申し上げます。

2014年を振り返って

事業部次長に聞きました



総務部

幼児教育の  
過渡期を迎え

鈴木豊司

本年度より、微力ながら総務部にてお力添えさせて頂いています。総務部は、運営委員会の議事進行、県連全体の予算取り纏め、その他PTAや全日・行政関連会議への出席等、その活動内容は多岐に渡っていますが、不器用な私は、各先生や事務局の皆さんのご協力と共に、ご迷惑をかけつつも何とか居座れている状況です。

さて本年度は、特に次年度からの新制度を控え、各々の現場で、それぞれの立場で様々な議論が交わされており、出席を重ねる度に益々以て移行期を深く実感しています。

子どもの本質は基本的に今も昔も変わらないのですが、言うまでもなく彼らや私たちを取り巻く環境は制度改革以外にも年々劇的に変化しており、同時に課題も山積している訳です。

県連では会長・副会長をはじめ、各部門が様々な観点から積極的に活動をしています。



振興部

新たな要望活動

仁藤一成

いよいよ新年度より、平成二十四年に成立した「子ども・子育て関連三法」に基づき、子ども・子育て支援新制度による認定こども園が始まります。県連加盟各園も、その対応に追われた事と思います。

振興部の主要活動の一つに、県当局、各党派への要望があります。要望内容は、

それに伴い、県下幼稚園の実態を把握すべき調査依頼や、研修へのご参加案内を受け取られる機会もあると思います。精度の高い実態の把握、また時には多くの方のお力添えが、正に幼児教育の過渡期である今だからこそ、重要となる場面に多々出会っています。

私自身、少しでも幼児教育の振興に寄与できればと思いつつ、しかしながら数の力が時に大きな壁を突き動かす原動力であるともつくづく感じています。どうぞご理解と共に引き続き皆様のご協力をお願い致します。



研修事業部

二十六年は  
じっくり基礎固め

山田まり子

振興部会により決定しますが、部員である各協会長から現状の問題点を提起して頂き、その内容を精査し作り上げました。新しい要望書は私学助成に対する部分と新制度への部分があり、前年度とは大きく違うものとなりました。運営委員会にて可決成立し、その要望書を持って各党派ヒアリングを行いました。県当局、各党派ともご理解を頂いたと思っていますが、県連加盟各園へ行政当局より支援を頂ける様、小澤会長の下、より一層働きかけを行って参りたい所存であります。

最後にお願いになりますが、本年四月は、神奈川県知事選挙と統一地方選挙があります。各園代表者の皆様には、議員候補者に幼児教育の重要性を訴えかける絶好のチャンスでありますので、ご理解賜るよう、お話をさせて頂きたいと思っております。

今年度免許状更新講習は更に充実し、湘南地区の藤沢協会の先生方が中心となり、小田原短期大学のご協力の下、選択十八時間を開催することが出来ました。益々需要が増している免許状更新講習、今後の弾みとなると実感しています。

前回の広報にて報告させて頂いた統合保育基礎講座。講師の上原先生の絶大な人気、統合基礎講座と言いつつ保育の在り方や大切さを語る内容。真剣に聞き入る受講者が印象的でした。

二地区二園で行われた公開保育研修会では、保育を公開することの意味や意義、見せて頂く側の真摯な態度を学びました。また、一〇年研修・中堅研修・園内研修などが行われ、たくさんの受講者が参加されました。どの会も自身の向上や自園の在り方を考える充実した時となりました。



研究部

次長として、  
この一年

黛 裕治

いると感じます。そして、部員一人ひとりが受講者の支えとして立ち働く姿が印象的でした。

たくさんの皆様のお力を頂き、大きな学びを感じられた一年に心より感謝申し上げます。

県連の研究部には一部員として、研修会や講習会等のお手伝い程度で関わってきていましたが、まさか自分が次長を拝命する事になるとは思ってもいなかった為、当初は不安感もあり大変に戸惑っていました。しかし、実際は部長である亀ヶ谷先生が全てを把握されており、事務局がしっかりとサポートしてくれているので、何とか大きなミス無く務めることが出来ています。

今年度は幼稚園にとって変革を求められた年となり、多くの設置者・園長先生方は大変に悩まれたことと思います。その中で、幼児教育の大切さを再認識されたのではないのでしょうか。物的な環境の質の向上も大切ではありますが、何よりも教育力・保育力の人的な質の向上が大切だと誰もが思っているはずです。

今年の研究特別委員会は、A部会では幼児理解と園内研修「公開保育を通して



経営管理部

慌しい  
一年間の中で

近藤康弘

平成二十六年度の経営管理部は、就職相談会の準備に向けての話し合いから始まり、就園奨励費実態調査、子ども・子育て新制度確認意向調査、一〇二条園プロ

自園のあり方を考える」をテーマに、公開保育コーディネーター養成講座の先生も加わって研修が行われ、B部会では幼児理解と評価「ドキュメンテーションで子どもの視点から保育の質を評価する」をテーマに、保育の記録映像を活用し研究を進めています。以上二つの研究を柱として、他には新規採用教員研修会を公私合同で二回、私学単独として四日間一〇講座を開設すると共に、教育課程研究協議会に於いては研究発表し、運営にも携わっています。また、若手後継者のための保育勉強会も意欲的に研修会を開き、幼稚園だけではなく多くの幼児施設を見学し、広く幼児教育力を高めるべく活動をしています。

今後も研修事業部と協力をし合い、多くの設置者・園長先生を始め、各園の先生方が携わり、ご協力をいただいて研究部の事業は運営されていきます。皆様にご感謝いたしますと共に、今後もご協力をお願い申し上げます。

平成26年度 神私幼相談事業DATA

教育相談実績

|     | 電 話 | 面 談 | 出 張 | 計  |
|-----|-----|-----|-----|----|
| 1月  | 1   | 0   | 1   | 2  |
| 2月  | 3   | 0   | 0   | 3  |
| 3月  | 0   | 1   | 2   | 3  |
| 4月  | 0   | 1   | 0   | 1  |
| 5月  | 5   | 2   | 1   | 8  |
| 6月  | 5   | 3   | 1   | 9  |
| 7月  | 1   | 3   | 2   | 6  |
| 8月  | 1   | 2   | 0   | 3  |
| 9月  | 4   | 0   | 1   | 5  |
| 10月 | 3   | 0   | 2   | 5  |
| 11月 | 2   | 0   | 0   | 2  |
| 12月 | 4   | 0   | 4   | 8  |
| 合 計 | 29  | 12  | 14  | 55 |

法律相談実績

|        | 相 談 内 容 |     |     |     |     | 合 計 |
|--------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|
|        | 労 務     | 経 営 | 保護者 | 事 故 | その他 |     |
| 1月～12月 | 7       | 4   | 8   | 2   | 1   | 22  |

部としての基礎固めをじっくり行えた年であったと感じています。

二十四年度は部を二つに分けた年でありました。それに加え関東地区教員研修神奈川大会の開催、二十五年度は全県大会と充実した取り組みが続き、それらの活動と共に二つの部が形あるものになっていったように思います。

そして二十六年、部長と部員の皆様が大きく入れ替わり新たなスタートを切りました。一つひとつをしつかり考え、適材適所、部員の皆様のお力をお借りし、お考えをお伺いしながら事業を進めて参りました。

今年度免許状更新講習は更に充実し、湘南地区の藤沢協会の先生方が中心となり、小田原短期大学のご協力の下、選択十八時間を開催することが出来ました。益々需要が増している免許状更新講習、今後の弾みとなると実感しています。

前回の広報にて報告させて頂いた統合保育基礎講座。講師の上原先生の絶大な人気、統合基礎講座と言いつつ保育の在り方や大切さを語る内容。真剣に聞き入る受講者が印象的でした。

二地区二園で行われた公開保育研修会では、保育を公開することの意味や意義、見せて頂く側の真摯な態度を学びました。また、一〇年研修・中堅研修・園内研修などが行われ、たくさんの受講者が参加されました。どの会も自身の向上や自園の在り方を考える充実した時となりました。

ジェクト委員会、後継者育成研修会等を、部長を柱に前年度から継続の先生と新しく経営部員に所属された先生方との意見をお聞きしつつ、一つひとつの事業を部員全員で運営して参りました。

それに加え、昨年九月に経営部に振って沸いた既卒者を対象とした就職セミナーの運営事業では、開始からの準備や県行政への最終確認許可などにも時間が掛かり、年明けの開催となっていました。

また、経営部の一つの大きな課題として、前年度より引き続き問題となっております教員募集についての就職相談会があり、開催日程の確認や読みやすいパンフレットの見直しの検討、各大学・養成校・専門学校への案内や呼びかけ等の話し合いをし、開催当日を迎えました。参加者数は前年度を上回りましたが、その

結果はまだまだ教員募集へと繋がっていないのが現状です。今後も県下の幼稚園全体で教員募集のあり方を今まで以上に考え、各校の新入生から卒業生まで、幅広い呼びかけも視野に入れて就職相談会への誘いと幼稚園の情報提供をしていきます。そして、既卒者にも早めの情報提供や再就職への後押しが今年度以上に出来るように思います。

そのほか、中学生などの幼稚園の職業体験実施を通じ、幼稚園教諭として子ども達と触れ合うことの楽しさや面白さを感じてもらい、将来の目標の一つになってもらえるよう、各園の受け入れ間口を今以上に広げてもらえればと願います。

次年度も経営管理部員の意見、支援を戴いて加盟園のお役に立てる企画運営が出来ればと考えます。

## 研究会報告

研究部主催

研修事業部主催

| 開催日      | 研 修 名              | 会 場             | 講 師                                                               | テ ー マ                                        | 参加者数        |
|----------|--------------------|-----------------|-------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|-------------|
| 12/ 3(水) | 連続研修会<br>“園内研修”    | かながわ<br>ようちえん会館 | 大妻女子大学 教授 岡 健 先生                                                  | 園内研修                                         | 27人         |
| 12/ 9(火) |                    |                 |                                                                   |                                              | 27人         |
| 1/14(水)  |                    |                 |                                                                   |                                              | ※延期         |
| 1/17(土)  | 就職セミナー             | かながわ<br>ようちえん会館 | 玉川大学教育学部<br>教授 若月 芳浩 先生                                           | 就職・現場復帰に向けて<br>～子どもの世界って楽しいですね～              | 66人         |
| 1/26(月)  | 若手後継者のための<br>保育勉強会 | ことぶき<br>こども園    | 講師：ことぶきこども園<br>園長 加藤 正克 先生<br>コーディネーター：玉川大学教育学部<br>教授 若月 芳浩 先生    | 認定こども園の新たな役割と課題                              | 14人         |
| 1/29(木)  | 逗葉オープン講座           | かぐのみ幼稚園         | 十文字学園女子大学<br>教授 平田 智久 先生                                          | 『“いつもの保育”で子どもは育つのか』<br>～“表現”の意味を問い直すと保育が変わる～ | 50人         |
| 1/31(土)  | 教育経営研修会            | かながわ<br>ようちえん会館 | 基調講演<br>文部科学省初等中等局幼児教育課長<br>淵上 孝 氏                                | 国が捉える私立幼稚園の将来について                            | 94人         |
|          |                    |                 | 講座<br>せんりひじり幼稚園園長<br>全日本私立幼稚園幼児教育研究機構<br>研究研修委員長 安達 譲 氏           | 教育の質の向上を目指して<br>—こどもをまんなかに関係性の中で—            |             |
| 2/ 5(木)  | 後継者育成研修会           | かながわ<br>ようちえん会館 | 株式会社アイギス<br>代表取締役 脇 貴志 氏                                          | 幼稚園のトラブルと危機管理<br>～プロが教える園対応～                 | 33人         |
| 2/ 9(月)  | 横浜オープン講座           | かながわ<br>ようちえん会館 | 児童文学者 斉藤 惇夫 氏                                                     | 子どもの成長と絵本                                    | 19人         |
| 2/19(木)  | 資質向上セミナー           | かながわ<br>ようちえん会館 | 東京大学大学院教育研究科・教育学部<br>教授 秋田 喜代美 先生                                 | 保育の質を考える：環境をみつめて                             | 31人         |
| 2/26(木)  | 若手後継者のための<br>保育勉強会 | かながわ<br>ようちえん会館 | 鎌倉女子大学・鎌倉女子短期大学部<br>初等教育学部 教授 佐藤 康富 先生<br>玉川大学教育学部<br>教授 若月 芳浩 先生 | 保育の質が高まる園になるために<br>～子どもの遊びの理解と保護者への発信～       | 42人<br>(予定) |

※1月14日(水)に開催予定でした「連続研修会“園内研修”」は講師の体調不良により、3月16日(月)に延期となりました。

### 後継者育成研修会報告

経営管理部 杉崎 直人

さる2月5日(木)、翌朝には積雪が予報されるあいにくな天候の中、今回は「幼稚園トラブルと危機管理～プロが教える園対策～」をテーマに、株式会社アイギス代表取締役の脇 貴志氏をお招きしてお話し頂きました。

脇氏は平成16年から現在までに幼児施設で起きた130件の死亡事故に関わっており、その中から園は事故やクレームがある前に何をしなければならないか？それには「過去の事故事例を振り返り、自園の危機管理を考える事が一番大切」と話され、先ずは自園の環境が過去の事故事例に繋がっていないかをしっかり検証し、職員への周知を徹底し、人為的なミスを防ぐ事が重要と講演されました。

とても身につまされる内容の講話となりましたが、これからの時代の園運営を考える上でとても有意義な研修となりました。

参加者は若手を中心でしたが、今後、設置者園長の皆様にも必要なお話だと感じました。



### 編集後記

From the Public Relations Section

#### “神私幼”ができるまで

公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会の会報“神私幼”は、毎年、6月・9月・12月・3月の年4回発行されています。県連加盟園の設置者・園長先生を対象に、園経営や教育に関する最新情報や、県連及び傘下12協会が実施する研修会の報告等、皆様に役立つ記事を掲載できるよう心がけています。編集に際しては、発行の約2か月前に川崎広報室長をはじめ7名の広報室員及び県連事務局員、石黒印刷の編集者が集まり、編集方針を決めます。1か月程で必要な原稿・写真等を集め、約半月前に最終校正を兼ねた編集会議を行ない、発行につなげます。

来年度も、子ども・子育て支援新制度の施行等まだまだ課題山積の中、園の運営に携わる先生方の期待に応えられるよう努めてまいります。是非とも“神私幼”をご愛読いただき、ご意見・ご感想をお聞かせください。

新年度が皆様の更なる飛躍の年となりますようお祈りいたします。

広報室員 吉村 文比古

#### 会報「神私幼」送付先一覧

- ① 県連加盟園578園(2部)
- ② 県私学振興課
- ③ 県次世代育成課
- ④ 全ての神奈川県議会議員
- ⑤ 協会事務局
- ⑥ 47都道府県私立幼稚園事務局
- ⑦ 神奈川県教育委員会
- ⑧ 県内教育委員会
- ⑨ 養成校
- ⑩ その他

